



京都 YWCA

7 2018

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

YWCA フェスタ in 京都

～みんなで作りだす YWCA の未来～



5月19日、20日の2日間、日本 YWCA 主催の「YWCA フェスタ」が開催され、全国から23の地域 YWCA が京都で一堂に会しました。2015年の世界 YWCA 総会で「2035年への目標」として、「1億人の若い女性が、権力構造を変革し、ジェンダー平等、正義ある平和、暴力のない世界をつくりだす」が採択されました。このフェスタでも、社会や生活の変化に伴う特に若い世代の会員の減少や、ボランティア市場の変化という厳しい現状が報告されました。その中で中長期ビジョンのキーワードとして、「若い女性の主体的活躍」、「セーフ・スペース*の存在」、「持続可能性の高さ」、「揺るぎないミッション」が掲げられました。

113年の歴史をもつ日本の YWCA ですが、女性のエンパワメント、核否定、多様性の尊重などは依然として取り組むべき社会的課題です。フェスタで行われた「地域 YWCA を主体とした活動」の第1期中間報告、第2期申請プレゼンテーション、日曜礼拝、二つの分科会すべてが、これらの課題に向けられたものでした。

久しぶりの、また初めて出会う約140名の会員の交流会は、迫力満点の「京の音屋」さんの歌と音楽で大いに盛り上がり、YWCA のネットワークを肌で感じる時間となりました。

以下、京都 YWCA から多文化共生委員会が分科会を担当した報告です。



全国から集まった参加者



プレゼンテーションの様子

*セーフ・スペース…一人ひとりが自分らしく安心していられる場

フェスタ分科会 「多文化共生社会を目指して」を担当して

今年度初めの多文化共生委員会で、一番若い会員の一声に押され、YWCA フェスタでワークショップ(以下WSと略す)をすることになりました。ヨーロッパ評議会*1 企画の「一歩前へ進め*2」を基に、私たちの社会が抱える課題に気づき、どうすれば私たちが目指す社会を実現できるのか、参加者と共に話し合えるWSに改編する作業は予想以上に大変でした。毎回の会議は長時間に及び、意見を出し合い、衝突し、折り合い、最終的にひとつの形になったWSは、メンバーの多文化共生の賜物といえるでしょう。

4月の京都 YWCA 会員日集会でWSを体験してもらった時、本番の半分の時間しかないこともあり、課題に向き合うところまで到達できませんでした。そこで、グループごとに



テーマ別分科会で率直に意見交換

配置する4人のファシリテーターが、これまで YWCA の活動などを通して出会った実在の人物のストーリーを紹介し、乗り越えられるべき一つひとつの状況に対してなぜその人物が前に進めなかったか、ど

うすればその課題は克服できるのかを考えてもらうなど、いくつかの改善点を考えました。

本番では、グループごとに豊かな話し合いが行われ、参加者から示唆に富んだ多くの意見が出されました。演じた役割についてふりかえった時には、ステレオタイプで見ないで一人ひとりと向き合うことが大切だという気づきがあり、課題解決のためには、頼れる場所があることや、同じ悩みを共有できるコミュニティづくりが大切だという意見もありました。さらに、制度的な壁を越えても、心の壁を乗り越えるにはどうしたらいいのか、ヘイトスピーチのような深刻な状況を生み出していることへの危惧も出されました。

最後に、フィリピン人女性がグループを立ち上げるという自立のきっかけとして、地域の YWCA があったことも紹介されました。今回のWSでの気づきが、それぞれの現場で「多文化共生社会」を目指す歩みへのエールとなればと思います。

(織田雪江)

*1…人権、民主主義、法の支配の分野での基準策定を主導する汎欧州国際機関
*2…ヨーロッパ評議会企画(2006)『人権教育のためのコンパス [羅針盤] 一学校教育・生涯学習で使える総合マニュアル』(明石書店)より。参加者に1枚ずつ役割カードを渡し、その役割になりきってもらい、ファシリテーターが読みあげる状況に、「そのとおりです」と答えられるものは、一歩前へ進むWS。

「YWCA フェスタ in 京都」のオプションとして、京都 YWCA は 2 つのツアーを企画し 5 月 21 日に実施しました。それぞれのツアー参加者から、報告と感想をいただきました。

1 日コース

京都の中にあるキリシタン史跡・朝鮮文化を巡るツアー



豊臣秀吉の命により長崎で磔の刑に処された 26 人のキリシタンが、耳を削がれた一条戻り橋を皮切りにツアーは始まり、一休禅師が再興した大徳寺にある塔頭の一つ、キリシタン大名大友宗麟の創建による「瑞峯院」を訪れた。大海からの荒波に耐えず晒されながらも雄々と独座する大自然を現わす枯山水「独座庭」、またキリシタン燈籠を中心に縦・横数個の石の流れが十字架を組む「閑眠庭」を前に、住職の話に耳をかたむけたひと時、別室でいただいた一服のお茶は、それぞれの感性に深く響くものであった。次いで高麗美術館へ。祖国の歴史・文化を正しく理解し真の国際人となる一步を踏み出すことを願った同館創設者子息の穏やかな説明によって、折しも展示されていた「朝鮮通信使」の理解がより深められた。そして渡来系氏族の秦氏が建立

し聖徳太子信仰の寺と言われ弥勒菩薩像で知られる広隆寺、秀吉の朝鮮侵略で削いだ 2 万人の耳・鼻が供養されている耳塚へと歩を進めツアーは終わった。



瑞峯院にてお茶をいただく

個人では到底知ることのできない「こと・もの・おもしろい」の一端に触れる機会が与えられ、配慮のいき届いた準備をして下さった京都 YWCA 関係者の皆様に心から感謝いたします。

(東京 YWCA 実生律子)

半日コース

伏見のふたつの顔を訪ねて ～戦跡めぐりフィールドワーク～



聖母女学院にて、記念撮影

抜けるような青空のもと、京阪「深草駅」を起点に、かつての「軍都」を初めて歩きました。「師団街道」の道路標識、「軍人湯」の看板、路傍の石柱。橋一つ、レンガ一個

戦争加害の歴史といえる遺跡が保存されている—— その背景には、次の世代が同じ過ちを繰り返さないでという京都の戦争体験者の強い意思があったことを知り、肌でメッセージを感じたような時間。文字を通して得る知識だけでなく、実際の場所に立って見ることがどんなに重要かということ

でも“そこにあるもの”が語りかけてくる戦争の痕跡に、驚くことの連続です。「師団司令部庁舎」現在の聖母女学院本館床に残るサーベルの傷跡には、当時を生々しく感じずにはいられません。一見普通の顔をした町の真処此処に、

凝縮された内容の中で経験させていただきました。私は京都の素晴らしい古刹にも魅了されますが、ここは今の時代だからこそ、もっと多くの人に知ってほしい町、一度訪れるべき場所だと思います。このような機会を用意して下さった京都 YWCA の皆さん、講師の磯崎三郎さん、ほっとするひと時の中で貴重なお話を聞かせて下さった二つのカフェの方々に、感謝いたします。

(横浜 YWCA 仲谷利理)

親子で信楽を訪ねて～信楽へのもりだくさんツアー～

「自然農法体験と現地の方との交流」

5 月 13 日、滋賀県南部の信楽町を訪問し、田んぼ体験や現地の方との交流を楽しみました。まず、自然農法を実践されているアメリカ出身のクリスさんの田んぼで「畦づくり」のお手伝い。田植え前の田んぼを取り囲む土手(畦)をしっかり固め、割れ目や穴をふさぎます。こうすることで、水を張った時に水や肥料が漏れるのを防ぐことができます。あいにくの雨の中の作業でしたが、泥の感触が心地よく、カエルやイモリにも出会うことができました。



畦づくりの様子

お弁当の後、子どもたちは室内でゲームをして遊び、大人たちは絵本作家の市居みかさんのカフェ兼ギャラリーを訪ねてお茶をいただきました。オープンしたてのカフェは、なんと私たちが「記念すべき最初のゲスト (!)」。その場には、京都 YWCA 「うららかふえ」で使っているお米の生産者大谷善一さんも来てくださり、信楽の魅力や減農薬でのお米作りについて、興味深いお話をたくさんうかがいました。

その後、参加者全員で、手作りの草餅をほおぼりながら、市居さんとお連れ合いの宮本さんによる絵本の読み語りを聞きました。元気いっぱいにはしゃいでいた子どもたちが、読み語りが始まるとすうっと絵本の世界へ吸い込まれるのを感じました。ページをめくるたびに新たな展開が待っていて、ギターを生演奏付きというのもすばらしく、読み語りの魅力を味わいました。

信楽の豊かな自然とそこに生きる人たちの温かさにふれる、忘れられない一日となりました。

(御前麻里)

***** YWCA と私——サラームで感謝の日々 *****

京都 YWCA 高齢者住宅サラームにお住まいの長塩滋子（93 歳）さんに、これまで生きてこられた道のりと、YWCA とのご縁や戦争体験を経ての今の思いを語っていただきました。

岡山空襲で焼け出されて

京都 YWCA サラームで卒寿を迎えるとは、まったく夢としか考えられません。

私は 1925 年（大正 14 年）岡山市で生まれました。幼い時はすぐに熱を出して病気ばかりで幼稚園にも上がりませんでした。小学校卒業前の 2 月末に父が病死し、母と妹の 3 人家族となりました。絵が好きだった私は、女学校を卒業して東京の叔父のところから女子美術専門学校に通っていました。しかし 1 年経った時、叔父に「戦争が激しくなる中で母と離れているのはよくない」と言われ、岡山に帰りました。当時家にいる娘は国に徴用されるので、その前に父の友人に頼んで中国銀行本店に勤めるようになりました。戦争は日々激しくなり、昭和 20 年 3 月 10 日東京大空襲、その後は大阪、名古屋と次々に襲撃を受け、岡山も 6 月 23 日に警報もなく B29 の空爆を受け、我が家も消失して焼け出されました。高梁の伯父の一部屋に置いてもらい岡山の銀行に通いました。8 月 6 日広島、9 日長崎での、岡山とは異なる新爆弾投下の惨状を聞かされました。そして、8 月 15 日終戦の日、銀行本店営業部に全員集合。ラジオの録音放送から、はっきり分からないまま日本は負けたのだと理解しました。焼け出されても日本が負けるなどと思ってみなかった軍国少女。「天皇陛下のため、国のため」とずっと父からも学校でも教えられてきたこれまでは一体何だったのか。これからどう生きればいいのか、と混乱する日々でした。

倉敷教会の門をたたき、クリスチャンに

11 月に亡き父の関係から倉敷駅前に長屋の一戸が与えられ、母と妹とで落ち着きました。キリスト教に縁のない家に育った私ですが、ある日、倉敷の駅のホームに一人で立っている時、突然何か大きなものに包まれていることを感じました。そして倉敷教会の門をくぐり、以後 2 年間は夢中で教会に通い詰め、1947 年 2 月に洗礼を受けました。

1947 年 8 月から東洋棉花株式会社岡山出張所に転職。腸チブスで 4 ヶ月休職のあと経理担当になり月末報告書類などに追われていた時、やはり自分のしっかりしたものを身につけたいという思いが起こり、上京を決意し退職しました。

日本 YWCA の魚木アサさんとの出会い

1954 年 4 月から女子美術大学の聴講生となり、そこで笠井美恵子先生と運命的な出会いをしました。「衣服は生活する人間が着るもの、その土台になる人体を研究しなければ」という考えに共鳴して、先生のアトリエで衣服製作の基本となる人体の研究に熱中しました。

東京では霊南坂教会に通い、1962 年クリスマスの転会の席で隣に並んだのが魚木アサさんでした。魚木さんは日本 YWCA 総幹事に着任されたばかりで、魚木さんの紹介で日本 YWCA 別館に引越しました。

女子美短大の講師の時、恩師笠井先生は胃ガンで逝去され、目標を失い退職しました。笠井先生の著書『服装造型』に推薦文を書いた下された大島正光先生（人間工学会副会長）から静岡県立女子大の教師公募を教えられ、応募して採用されてまったく未知の土地である静岡に転居しました。その後大学の統合で静岡県立大学となり、生活科学研究センターの教師として定年まで働きました。定年後、短大の非常勤講師を勤め終える頃に、申し込んでいた大阪 YWCA 千里からシャロン千里のケアハウス一室が空いたと連絡を受け、2005 年 4 月静岡を引揚げ、引越しました。



霊南坂教会の前にて魚木さんと

フルートを生きがいに、平和を祈る日々

大阪シャロン千里ではボランティア委員会に加わって楽しく過ごしましたが、千里から京都葵教会に日曜礼拝に通い続けていた時、京都 YWCA サラームを知って申し込み、2014 年 11 月に入居しました。そこには魚木さんもいて、岡山、倉敷、東京、静岡、大阪を経て落ち着いた京都で再び一緒になるうとは、何とも計り知れない御導きに肅然とするばかりです。

世界中の事件が即時に広がる現在。何も知らされずに過ごした過去を思う時、広い視点の学びを育て、共に生きる平和への道を探り求め続けて、祈り続ける努力を心から願って止みません。

今の私の一番の生きがいは、70 歳から始めたフルートの練習と、先生の下での月 1 回のレッスンです。サマリア館前の季節を彩る花壇、夏ミカン、柿の木に囲まれて、地域に開かれた「うららかふえ」のボランティアの方々が用意してくださる日替りランチ、ケーキ、マーマレード。月一度のスリフトセールを楽しみ、子ども達の元気な声や多くの方々に囲まれた毎日を、心から感謝しております。



シャロン千里ボランティア委員会の皆さんが開いてくれたお別れ会（2015 年 3 月）

（長塩滋子）

※ オムロン「京都ヒューマン賞」受賞! ※

京都 YWCA 多文化共生委員会
の外国人支援グループ APT (Asian
People Together) は、京都オム
ロン地域協力基金より、2018 年
度「京都ヒューマン賞」を頂戴し
ました。



APT は 1991 年に電話相談を開
設して以来、滞日外国人が抱える
さまざまな問題の解決のお手伝いをしてきました。27 年間一貫して、
相談者に寄り添うことをモットーに続けてきた地道な活動を評価
していただいたことは、メンバー一同にとってこの上ない光栄であり、
今後への励みとなりました。6 月 5 日に行われた贈呈式では、
同じく受賞された、それぞれ素晴らしい活動を展開されている「八
幡たけくらぶ」、「認知症の人と家族の会」の方たちとともに、たく
さんの出席者の方々に祝福していただきました。(神門佐千子)

ボランティア募集説明会を開催 (5/12)

京都 YWCA では、ほとんどの活動で会員と非会員のボランティ
アが「共働」しています。直接声を届けて YWCA の仲間を増やす
機会として募集説明会を実施しました。前半は京都 YWCA につ
いての全体オリエンテーション、全員の自己紹介、各活動委員会
からの募集説明を行いました。後半は、それぞれ関心のある分野や、
参加したい活動への質問などをする時間をもちました。

参加者は、京都 YWCA をホームページで知ったばかりという
方や、「うららかふえ」のお客さま、ボランティアとしてすでに関
わりがあるけれど、さらに YWCA について知りたいと参加され
た方などなど。性別や年代も多様です。自分の関心のある分野の
ことだけでなく全体の説明を聞いてよかったという声もいただき
ました。すでに活動を始められた方もおられます。

今回の説明会は、活動の励みとなったばかりでなく活動を客観
的に見直す機会でもあったと感じました。(弘中奈都子)

今後のプログラム

◎サタデーシネマ「LION/ライオン〜25年目のただいま〜」

- 日 時：2018 年 7 月 28 日 (土)
11:00 ~ 16:00 (部分参加可) 映画上映 13:00 ~ 15:00
- 場 所：京都 YWCA うららかふえ
- 内 容：「LION/ライオン 25 年目のただいま」(豪・米・英合作、
2016 年) の鑑賞と交流
- 参加費：鑑賞無料 (ワンドリンクをご注文ください)
- 対 象：どなたでもどうぞ
- 申 込：不要

◎日韓ユース交流プログラム「ピースメーカーになろう」

- 日 時：2018 年 8 月 17 日 (金) ~ 20 日 (月) 3 泊 4 日
- 場 所：京都 YWCA および京都市内
- 宿 泊：宇多野ユースホステル
- 参加費：20,000 円
- 対 象：概ね 15 ~ 25 歳までのユースで、事前準備会および全
日程に参加できる方
- 定 員：9 名
- 申 込：所定の申込用紙に記入して Fax または Email にてお送り
ください

◎小学生の居場所プログラム「ガジュマルの樹」
夏休みディアウト

- 日 時：2018 年 8 月 20 日 (月)・21 日 (火)・22 日 (水)
全 3 日間、それぞれ 10:00 ~ 17:00
 - 内 容：お出かけ、夏休みの宿題、室内デイプログラム
(多文化理解プログラム、料理など)
 - 参加費：各日 1 日参加 2,500 円、3 日間参加 7,000 円
 - 定 員：20 名 ※先着順
 - 申 込：要 所定の申込用紙に記入して Fax または Email にてお
送りください
- ※プログラムの企画・宿題サポート、引率などのボランティア
(大学生以上) も募集中!

ご寄付ありがとうございました。

2018年4月1日から5月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

安田順子、上村愈巳子、山本いづみ、大谷善一、山村菜由

各指定寄付

*会館改修、メンテナンス募金
有田孝子

*未来応援募金
本田次男

*親・子育て支援活動委員会
匿名、親子ライブラリー有志

*多文化共生委員会
上原従正、リリアンテルミ ハタノ、田畑亜希子、土井アルリーン、
京都・東九条 CAN フォーラム、永井靖二、張善花、安藤いづみ、
本田次男、神岡茂子

*平和・環境委員会
平和・環境委員会有志

*あじさいバザール
清水義、有田孝子、中井和子、福嶋節子、筒井奈都子、池上信子、神岡茂子、
生活クラブ・京都エルコープ、テララ貨物店、(株)田中工務店、マイチケット、
(株)ユニティ、西京都共同購入会、

*うららかふえ
宮武美知子

*自立援助ホーム「カルーナ」(教育奨励金)
亀田和代、伊東真喜子、御前明美、ピーティ・デイビッド、伊藤眞一郎、
篠田茜、江川みゆき、猿橋正子、匿名

*自立援助ホーム「カルーナ」後援会費・寄附
船越克真、山上義人、奥村孝、岩崎明生、小杉總子、小林裕彦、大槻裕樹、
大山悠子、村上ヨシ子、井上摩耶子、定本ゆきこ、松岡由香子、御前明美、
館山英夫、佐野千枝子、水野篤夫、横江美佐子、岩井一、伊藤眞一郎、
植松満里子、小泉小枝、宮武美知子、有田孝子、小宮一子、浅野献一、
坪野えり子、江川みゆき、実生律子、大手理絵、猿橋正子、小寺敬子、
應典院、国際ソロプチミスト京都北山、匿名 4、カルーナ有志、

*賛助費
深田ローラ、森律子、神岡秀治、清水義、大城美代子、吉田繁



5・6月/理事会報告

- 2018 年度「京都 YWCA 未来応援募金——多世代・多文化および女性・子どもの
エンパワメントのために」(目標額 240 万)を実施する。
- 本館外壁補修およびレンガ塀耐震補強の工事のスケジュールについて検討。
- 前年度より組織理解の一環として「会員ハンドブック」改定作業を進め、改訂ハン
ドブックを完成し、会員・会友に配布。
- 多文化共生委員会の外国人支援活動グループ APT が、社会貢献個人・団体を顕彰

- するオムロン「京都ヒューマン賞」の 2018 年度を受賞団体に選ばれる。
- 自立援助ホーム「カルーナ」主催学習会「『貧困世代』の未来をどう創るか」(講師
藤田孝典さん)を実施 (6 月 9 日)
- 「日本 YWCA フェスタ in 京都」に協力。日本 YWCA より助成を得て、地域
YWCA 連携事業「会員のリーダーシップ養成」事業を継続する。

KYOTO YWCA No.545

2018 年 7 月号 (7 月 1 日発行)

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019 京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075)431-0351

FAX：(075)431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財)京都 YWCA

定 価：奇数月 1 日発行 (1 部 50 円)